

NIIGATA アートリンク 2025

各館開催講座のご案内

※最新情報は各館HPやお電話にてご確認ください。

新潟県立、新潟市立の美術館4館の学芸員が講師を務める講座一覧です。
「美術に関する知識を深めたい」「作品や作家のことをよく知りたい!」
と思ったら、お気軽にご参加ください。

申込不要
聴講無料

●新潟県立近代美術館

TEL 0258-28-4111

長岡市千秋3丁目278-14

<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

●新潟県立万代島美術館

TEL 025-290-6655

新潟市中央区万代島5-1

朱鷺メッセ内 万代島ビル5階

<https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>

●新潟市美術館

TEL 025-223-1622

新潟市中央区西大畑町5191-9

<https://www.ncam.jp/>

2025年8月29日まで

改修工事のため休館

●新潟市新津美術館

TEL 0250-25-1300

新潟市秋葉区蒲ヶ沢109-1

<https://www.city.niigata.lg.jp/nam/>

2026年3月末まで

改修工事のため休館

	開催日時	講座名／講師	講座内容	会場、定員など
近代美	7月19日(土)	コレクション展「佐渡の作家たち」を見る。	昨年7月、「佐渡島の金山」が世界文化遺産登録されたことを記念して、コレクション展に展示中の佐渡島出身、ゆかりの作家の作品を通覧し、佐渡島の文化、郷土性について考えてみたいと思います。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	松矢 国憲（新潟県立近代美術館 学芸員）		定員165名
近代美	8月16日(土)	フランスの浮世絵師 アンリ・リヴィエール	アンリ・リヴィエール（1864～1951）はジャポニズムの流行した時代のパリに生まれ育ち、木版画や石版画により抒情豊かな風景や人物を描きました。日本と関わりの深いその生涯や、代表作《エッフェル塔三十六景》など魅力的な作品世界をご紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	平石 昌子（新潟県立万代島美術館 学芸員）		定員165名
新潟市美	9月20日(土)	パブリック・コレクションの理念と現実	美術館のコレクションは、不特定多数の人々に共有される「記憶／歴史」となることを目指しています。日本の美術館の事例いくつか、そして当館のコレクションについても、なるべくリアルにお話する考えです。	新潟市美術館 講堂
	14:00～15:30	藤井 素彦（新潟市美術館 学芸員）		定員80名
近代美	9月20日(土)	「オバケ」って何？	「オバケ」とは具体的にどんなものを表しているのでしょうか。本講座では「お化け」を日本と西洋でどのように捉えてきたのか、その系譜について鳥山石燕『百鬼夜行』や旧約聖書、ギリシア神話、北欧神話等を起点として、現代のモンスターまでたどります。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	藤田 裕彦（新潟県立万代島美術館 学芸員）		定員165名
近代美	10月25日(土)	新潟の童画家たち —川上四郎と落谷虹児—	長岡市出身の川上四郎（1889～1983）と新発田市出身の落谷虹児（1898～1979）は共に大正・昭和のこども向けの雑誌や絵本で長く活躍しました。二人の残した同時代の仕事を比較しながら、当時のこどもをめぐる世相の一端をご紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	池田 珠緒（新潟県立近代美術館 学芸員）		定員165名
新潟市美	11月8日(土)	ファッショナブルな絵画 —美術と流行	巷に流行る風俗を画家たちは巧みに画面に取り入れてきました。そのものずばりのファッションばかりでなく、大衆の求めるテーマにも敏感に反応してきたのです。時代を経た現在では見えにくくなっている当時の流行を、実際の絵画を通して読み解きます。	新潟市美術館 講堂
	14:00～15:30	荒井 直美（新潟市美術館 学芸員）		定員80名
新潟市美	11月15日(土)	新潟を描いた版画家1 川瀬巴水	近年人気が急上昇している「新版画」。その代表的版画家といえば川瀬巴水（1883～1957）。全国を旅して取材した風景を木版画に表し、旅情詩人と称されたこの版画家について、新潟を描いた作品を織り込みつつ、仕事全般を紹介します。	新潟市美術館 講堂
	14:00～15:30	滝沢 恭司（新潟市美術館 特任館長）		定員80名
近代美	11月15日(土)	幽霊？ お化け？ 日本美術に見る怪異表現	日本の美術には、幽霊やお化けをはじめ、様々な怪異な存在が描かれてきました。現実には目に見えない、得体のしれないものをどのように表現してきたのでしょうか。中世の絵巻物から浮世絵まで、その様相を紹介します。	新潟県立近代美術館 講堂
	14:00～15:30	飯島 沙耶子（新潟県立近代美術館 学芸員）		定員165名

	開催日時	講座名／講師	講座内容	会場、定員など
新 津 美	11月23日(日祝)	画家・阿部展也 1950年代の「課外活動」	五泉市出身の画家、阿部展也。1950年代には創作の傍ら、インドや欧米を訪問し、アメリカ美術の入門書執筆、ユーゴスラヴィア墓石彫刻の調査などにも精力的に取り組みました。同時期絵画との関連も交えて、それら「課外活動」を紹介します。	新潟市美術館 講堂 定員80名
	14:00～15:30	上池 仁子（新潟市新津美術館 学芸員）		
新 津 美	11月29日(土)	異文化が融合した街 トレド	何世紀にもわたりキリスト教徒・イスラム教徒・ユダヤ教徒が共存していたために、独特の文化が育まれた街トレド。その歴史を追いつつ、スペイン・カトリックの大本山である大聖堂を中心に旧市街をご案内します。	新潟市美術館 講堂 定員80名
	14:00～15:30	石月 裕子（新潟市新津美術館 学芸員）		
新 津 美	12月6日(土)	西洋美術にみるシェイクスピア —19世紀英国を中心に	長きに渡り画家たちにインスピレーションを与えた劇作家シェイクスピア（1564～1616）。本講座ではシェイクスピア戯曲を題材にした美術作品を取り上げ、19世紀英国の画家を中心に、その多様で魅力的な表現をご紹介します。	新潟市美術館 講堂 定員80名
	14:00～15:30	小野 百合香（新潟市新津美術館 学芸員）		
新 潟 市 美	12月13日(土)	新潟を描いた版画家2 織田一磨	昭和の初め、新潟版画同好会の求めに応じて石版画家の織田一磨（1882～1956）が新潟を訪れ、市内の風景を版画に表しました。木橋の2代目萬代橋や完成直後の新潟カトリック教会などを描いた石版画を含め、織田の主要な仕事を振り返ります。	新潟市美術館 講堂 定員80名
	14:00～15:30	滝沢 恭司（新潟市美術館 特任館長）		
新 津 美	12月20日(土)	漫画家・高野文子の活動	高野文子が描く漫画は、一般読者のみならず同業者や評論家にも大きな衝撃を与えてきました。高野の作品がどのようなコンテクストのもとに生まれ、語られてきたのか、活動の場の推移からその特徴を探ります。	新潟市美術館 講堂 定員80名
	14:00～15:30	大野 智世（新潟市新津美術館 学芸員）		
新 潟 市 美	2月15日(日)	美術史で歩く新潟	新潟を通り過ぎた美術家たちの、あながい身近な足跡をたどります。 話題にする予定の人々；川村清雄・岡倉天心・中原悌二郎・柳宗悦・柳原義達・その他。	新潟市美術館 講堂 定員80名
	14:00～15:30	藤井 素彦（新潟市美術館 学芸員）		
新 津 美	2月28日(土)	Ahoj ! 海外の絵本原画	新津美術館は、世界的に権威ある「ブラチスラバ世界絵本原画展」に出品された海外作家の絵本原画を54点所蔵しています。他館にあまり類例のないこのコレクションについて、調査の過程や成果をお話します。	新潟市美術館 講堂 定員80名
	14:00～15:30	山岸 亜友美（新潟市新津美術館 学芸員）		
新 潟 市 美	3月15日(日)	セメント彫刻小史	セメント製のモニュメントは明治末から各地に増えていきました。最近では珍しくなりましたが、県内には興味深い作品が多数残っています。美術館では取り上げにくい、セメント彫刻の歴史をたどります。	新潟市美術館 講堂 定員80名
	14:00～15:30	藤井 素彦（新潟市美術館 学芸員）		

新津美術館は改修工事にともない休館中のため、
新津美術館学芸員の講座は新潟市美術館の講堂を会場として開催します。会場にご注意ください。